

タイトル 「講演」

講演者 八重樫 東

講演テーマ 「 我、弱き者ゆえに～子どもたちに伝えたいこと 」

1 はじめに

1983年2月25日生まれ、岩手県北上市の出身。漫画『スラムダンク』に影響されて、中学生のときはバスケットボールに夢中でした。少年時代は劣等感の塊で、中学校入学時の身長は132cmと体が小さく、「どうせ僕なんて…」が口癖でした。

黒沢尻工業高校でボクシングに出会い、2000年のインターハイではモスキート級で優勝しました。拓殖大学に進学し、2002年の国民体育大会ではライトフライ級で優勝しました。アマチュア時代は70戦56勝という戦績でした。

卒業後、大橋ボクシングジムに入門して、デビューから5戦でOPBF東洋太平洋ミニマム級王座を獲得しました。しかし、初めて挑戦した2007年の世界戦で、顎を2か所骨折、判定負けを喫しました。低迷する日々が続きましたが、アルバイトをしながら練習に励み、4年ぶりとなる2011年の2度目の世界戦でWBA世界ミニマム級王者に輝きました。2013年にはWBC世界フライ級王者になり、そして、2015年にはIBF世界ライトフライ級王座を獲得して、日本人としては3人目の3階級制覇に成功しました。

パンチの速さや、打たれても打たれても前に出ていくファイティングスタイルから、「音速の拳」や「激闘王」などと呼ばれていますが、これまでの経験から、自分が弱いことを自覚しています。自分の弱さを自覚しているからこそ一生懸命練習し、日々の練習の積み重ねが勝利へと導いてくれます。自分の能力を正確に把握して、それを謙虚に受け入れることが大切です。

2 子どもたちへ

やらなければならないことがあるなら、それを最優先にやらなければなりません。例えば、宿題があるなら、まずはそれを終わらせなければいけません。それを終えるまでは、やりたいことをしてはいけません。

あいさつも大事です。道などで子どもたちに「あっ、八重樫だ。」と、名前を呼び捨てにされることがあります。そのときは彼らと呼ばれ止めて、「八重樫さんだろ。」と注意します。

当たり前のことを子どもたちに伝える。それを続けていくことが子どもたちのためになり、子どもたちのより良い未来につながっていくのです。

